

GEOLIS+ (日本地質文献DB) 運用開始

地図上で地質図類を検索

成果普及部門 地質調査情報部 菅原 義明

地質文献データベース開発の経緯

今日のように質・量共に大量の情報があると、研究者が課題の解決に必要な情報を収集整理・利用するにあたっては、多くの時間と労力が必要となっている。特に地質学分野では、他の分野に比べ情報の寿命が長く、文献および図面など情報の種類が多い。地質調査情報部では、主要業務の一つとして地質文献情報の収集・整備・提供を行ってきた。地質文献目録は、旧地質調査所時代1961年から冊子体を発行、1986年にGEOLIS(旧日本地質文献DB)として電算化、1996年にはRIO-DB(研究情報公開DB)の一つとして公開を開始した。これまでに年1~2万件のデータを追加、2003年

度現在でデータ総量は約22万件に達し、年間アクセス数は約30万件を数え、地質関係の研究・教育関係者を始め、広く一般に利用されるDBとなっている。今回はGEOLISに地質図等を含む文献・地図類の位置情報を加え、地図上からも検索できるGEOLIS+(<http://www.aist.go.jp/RIODB/DB011/index.html>)としてRIO-DBに公開した。

GEOLIS+の特徴および利用方法

GEOLIS+には、地質調査情報部で収集した地質文献・地質図等の中から、地球科学および地下資源に関する情報を日本地域あるいは日本人著者という基準で選択し、データベース化されている。

GEOLIS+は地図上からの文献検索を可能とし、その検索方法は、旧GEOLIS同様の文字入力検索(左側の文字入力画面)に加え、検索画面(図1)の右側の地図で範囲を設定して検索する方法である。検索結果に位置情報があれば

地図範囲が表示され(図2)、詳細表示では国土地理院作成の数値地図を背景にした文献範囲が表示(図3)されるので利用者は視覚的に論文内容の位置を確認することができる。また産総研地質調査総合センター発行の地質図類・報告書の一部は、画面でプレビュー画像、またはフルテキストで見ることできる。今後、検索結果のG-XML(XML技術を利用した地理情報記述言語)出力機能付加の予定があり、G-XMLを利用すればGEOLIS+の検索結果からパーソナルのデータ集作成が可能になる。

GEOLIS+の将来方向

GEOLIS+は、今後さらにデータの整備を進め、より使いやすいデータベースに進化させていくために、①地質図画像を背景画像に表示、②地域指定可能な文献の位置情報の入力範囲拡大、③G-XMLの普及状況をみながらGEOLIS+と他のDBとのデータ交換等、④地質調査情報部で作成している文献DBである外国地質図DB(GMAPI)との統一検索、等を検討していく予定である。

●問い合わせ

成果普及部門地質調査情報部
e-mail: geolis@infobase.aist.go.jp



図1 検索入力画面



図2 検索結果画面



図3 検索結果詳細画面